

# 第4章

## 地域別住宅施策の 基本方針と展開方向

## 第4章 地域別住宅施策の基本方針と展開方向

### 1. 地域の分類と地域別の目標像

地域別の住宅施策については、大館市を6つの地域に分類し、地域の現状や課題等の特徴を踏まえた将来像を次のように設定します。



## 2. 住宅施策の基本方針と展開方向

### 2-1. 大館東地域

#### (1) 地域の特性

##### ◆地域の概要

- 市東部に位置し、北に青森県、東側が鹿角市や小坂町と隣接する地域です。面積 144.84 km<sup>2</sup>で、市全体の 16%を占めています。
- 東部から西部には一級河川米代川の支流である長木川が流れ、西南部や東南部の川沿いには平地が見られるものの、その他の地域はほとんどが山地となっています。
- 土地利用では、長木川左岸の台地は藩政時代の城下町を前身とする市街地で、これまで度重なる大火に見舞われ、土地区画整理事業等の都市基盤整備が進められてきました。
- 長木川を挟んで、大館駅周辺と大町周辺をつなぐように中心市街地が形成されており、商業施設をはじめ、官公庁施設等が集積していますが、活力を失いつつあります。西部の国道 7 号沿道は、郊外型商業施設が集積する沿道型商業地として利用されています。また、大田面地区を中心に大型商業施設が立地し、その周辺では宅地化が進んでいます。
- 住宅地は商業地等を取り巻くように形成され、既存住宅地の中には住宅の密集地や、狭あい道路が複雑に入り組んだところもあります。また、空き地、空き家の増加も見られます。一方、民間資本を活用した大町の再開発として、民間の店舗・住宅と一体となった大町借上住宅の完成や、市営住宅の向町住宅・新町住宅・中町住宅が更新されました。
- 交通基盤として、JR 奥羽本線・JR 花輪線の大館駅、JR 花輪線の東大館駅が立地しています。また、市街地の国道 7 号を中心に、自動車交通の骨格を形成しています。
- 歴史的風致維持向上計画の重点区域に指定され、歴まち散歩が行われるなど、大館城址の歴史や文化を活かしたまちなみ景観づくりを進めています。
- 大館市バリアフリーマスタープランが策定され、大館駅周辺や大館市役所周辺地区が、移動等円滑化促進区域に位置づけられています。



新庁舎と桂城公園



JR 大館駅

◆人口・世帯

○大館東地域の2015（平成27）年の人口は、32,786人で市全体の42.7%を占めています。世帯数は、13,822世帯で市全体の48.9%を占めています。1世帯当たりの人員は、2.37人/世帯で、6地域の中で最も低くなっています。

○高齢者の割合は33.0%と、市の平均と比べて2.9%低くなっています。

表 人口・世帯等の現況（大館東地域）

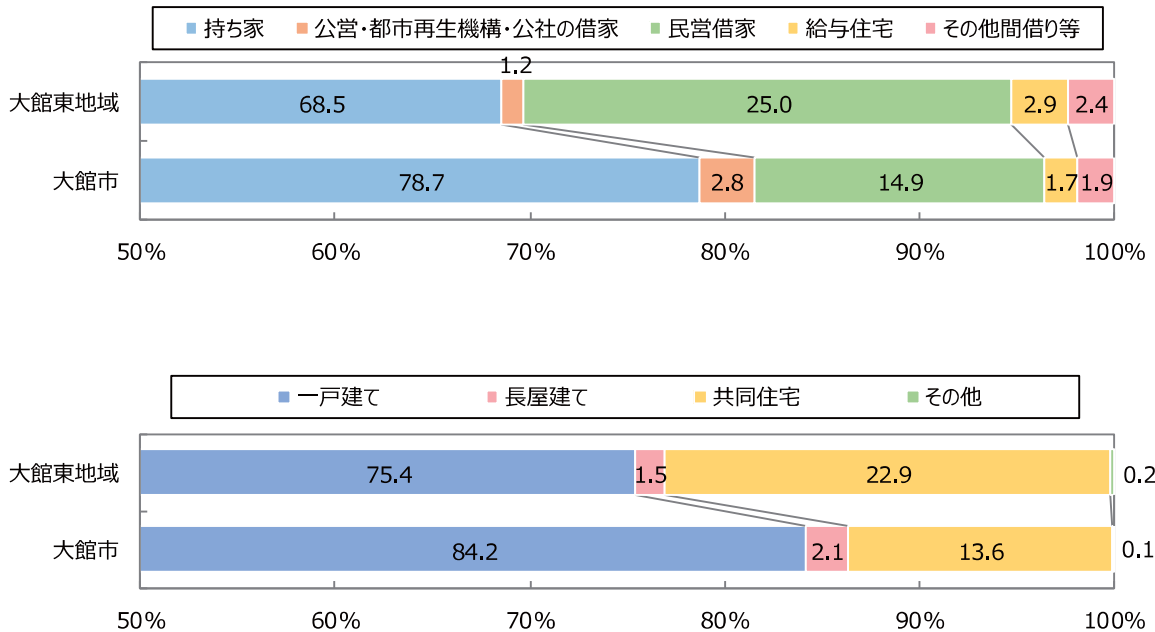
	人口	割合	世帯数	割合	1世帯当たり 人員
大館市	74,175	100.0%	28,242	100.0%	2.63
大館東地域	32,786	42.7%	13,822	48.9%	2.37

資料：2015（平成27）年国勢調査

◆住宅・住環境

○住宅の所有関係では、持ち家 68.5%、民営借家 25.0%となっており、市の平均と比べて持ち家と公営・都市再生機構・公社の借家の割合が少なく、民営借家の割合が多い傾向となっています。

○住宅の建て方では、一戸建てが 75.4%、共同住宅が 22.9%となっており、市の平均と比べて共同住宅の割合が多くなっています。



資料：2015（平成27）年国勢調査

図 所有関係別・建て方別の現況（大館東地域）



## ◆住民ニーズ

- アンケート結果によると住まいの満足度は、“部屋の広さや数”や“便所の設備”、“日当たりや風通しの良さ”に対する満足度が高く、反対に“遮音性”や“断熱性”に対する満足度が低くなっています。
- 周辺環境の満足度としては、“日常の買い物”や“病院・福祉施設”、“通勤・通学”等の利便性等に対する満足度が高く、反対に“道路の除雪”に対する満足度が低くなっています。
- 居住継続意向は、72.9%が「ずっと住み続けたい」、「当分住み続けたい」となっており、他の地域に比べて低くなっています。

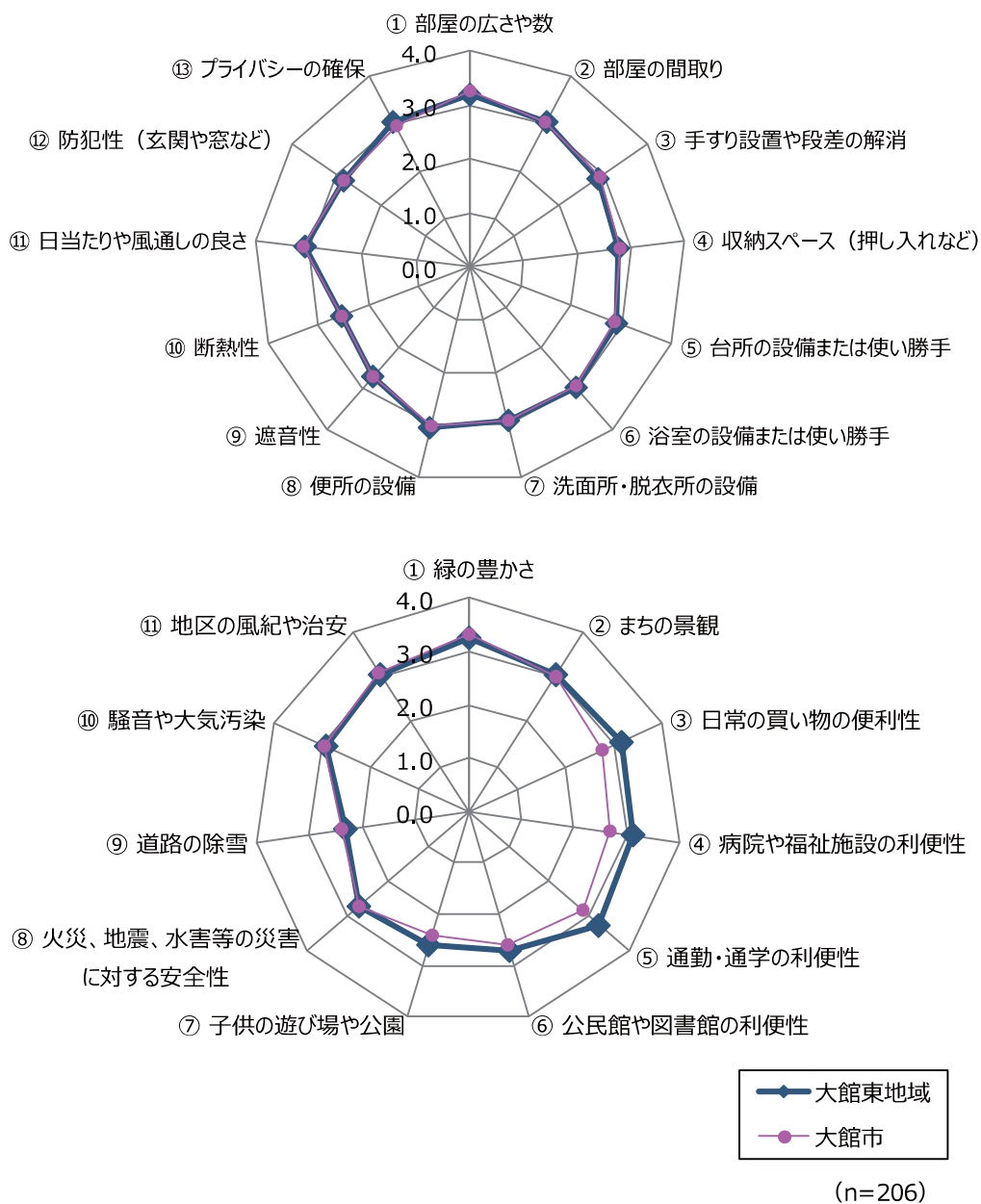


図 住宅及び周辺環境の満足度 (大館東地域)

## (2) 地域の課題

- 本地域は、交通結節機能を持ち、都市基盤や都市施設、公園や緑地、生活利便施設等が整った中心市街地が形成されています。また、市営住宅の建替えや土地区画整理事業、歴史的風致維持向上計画に基づく整備や施策が進められています。さらに、賑わい創出に向けた大館駅前の整備や空き店舗を活用したリノベーション事業など、公民が連携した取り組みも行われており、これらの地域特性を活かした活動が求められます。
- 一方、密集住宅地や狭あい道路が見られる住宅地、中心市街地における空き地・空き家の増加等による都市のスポンジ化も見られることから、これらの状況に対応した取り組みが求められます。

### ◆大館東地域の将来像

大館東地域  
将来像

歴史や文化、都市機能を活かし、  
みんなが暮らしたくなる住環境づくり

## (3) 主な施策

目標	展開方向	主な方針、施策等
目標 1	便利で快適に暮らせる住環境整備	雪国でも暮らしやすい住環境整備
	歩車共存できる秩序ある土地利用	中心市街地の秩序ある土地利用推進
目標 2	空き家・空き地を最大限に活用し、 遊休不動産の解消	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険空き家の解消を促進</li> <li>・空き家・空き地の利活用を促進</li> </ul>
目標 3	魅力あふれる街なかを形成し、 誇れる大館式コンパクトシティの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街なか居住の推進</li> <li>・中心市街地活性化施策との連携</li> </ul>
	公共交通が機能した コンパクトシティの実現	駅前を起点とした賑わい再生
目標 4	住まいやまちづくりなどを知り、 大館市への愛着と誇りを育成	大館式リノベーションスクールの開催
目標 5	市営住宅の良質ストック整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に配慮した市営住宅整備推進</li> <li>・居住環境を改善し、安全・安心な市営住宅整備推進</li> </ul>

東地域は、大館の都市機能や住宅が集積する、利便性が高いまちづくりが必要だね！



## 2-2. 大館西地域

### (1) 地域の特徴

#### ◆地域の概要

- 市西部に位置し、西側が北秋田市等に隣接する地域です。面積は 55.14 km<sup>2</sup>で、市全体の 6%を占めています。
- 一級河川米代川が中央部を東から西に流れ、その支流である長木川と合流しています。北部・西南部は山地で、東南部の米代川沿いにまとまった平地が広がり、商業地や住宅地として利用されています。
- 土地利用では、平地を中心に都市計画区域に指定され、東部の国道7号沿いが用途地域となっており、商業地や住宅地として利用されています。また、国道7号沿道では、用途地域外にも集落が形成されています。
- 米代川沿いに広大な田園地帯が広がり、農業生産の場となっており、田園地帯の中に集落が点在しています。一方、居住地と土砂災害危険区域が近接している箇所もあり、土砂災害警戒区域等として指定されています。
- 工業団地として、二井田地区工業団地（県営大館工業団地、県営大館第二工業団地、市営二井田工業団地）が立地しています。また、生ごみや家畜廃棄物を利活用する堆肥生産施設（コンポストセンター）が立地し、循環型社会の一端を担っています。
- 市民の森では、憩いや健康づくりの場としての機能を果たすため、施設管理が行われています。
- 交通基盤として、JR 奥羽本線が国道7号と並走し、下川沿駅が立地しています。本地域を横断する国道7号が主要幹線道路となっており、比内地域を結ぶ幹線道路である（主）比内田代線、北秋田市や大館東地域とを結ぶ（一）大館鷹巣線等により道路網が形成されています。また、日本海沿岸東北自動車道が整備され、二井田真中 IC が供用開始し、高速交通の確保、周辺の企業進出・設備投資の後押しにも効果が期待されています。



二井田地区工業団地

#### ◆人口・世帯

○大館西地域の 2015（平成 27）年の人口は、8,384 人で市全体の 11.3%を占めています。世帯数は、2,933 世帯で市全体の 10.4%を占めています。1 世帯当たりの人員は、2.86 人/世帯で、市の平均よりも高くなっています。

○高齢者の割合は 38.4%と、市全体に比べて 2.5%高くなっています。

表 人口・世帯等の現況（大館西地域）

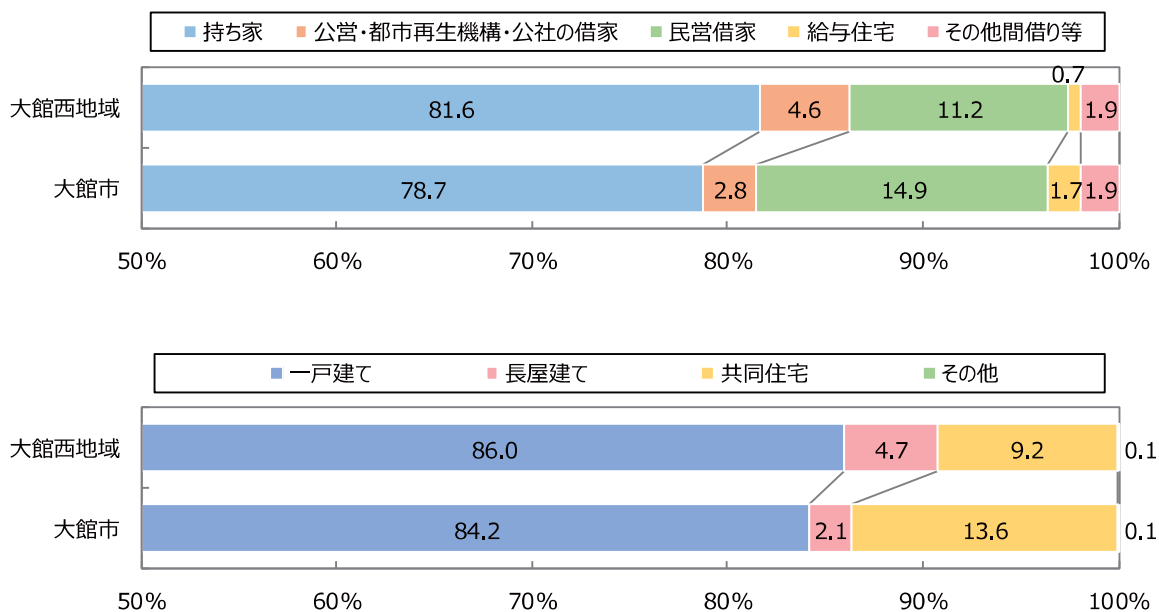
	人口	割合	世帯数	割合	1世帯当たり 人員
大館市	74,175	100.0%	28,242	100.0%	2.63
大館西地域	8,384	11.3%	2,933	10.4%	2.86

資料：2015（平成27）年国勢調査

#### ◆住宅・住環境

○住宅の所有関係では、持ち家 81.6%、公営・都市再生機構・公社の借家 4.6%、民営借家 11.2%となっており、大館東地域に次いで民営借家の割合が多くなっています。

○住宅の建て方では、一戸建てが 86.0%、共同住宅が 9.2%となっており、市の平均と比べて一戸建ての割合が多くなっています。



資料：2015（平成 27）年国勢調査

図 所有関係別・建て方別の現況（大館西地域）



◆住民ニーズ

- アンケート結果によると住まいの満足度は、“部屋の広さや数”、“日当たりや風通しのよさ”に対する満足度が高く、“断熱性”に対する満足度が低くなっています。
- 周辺環境の満足度としては、“緑の豊かさ”に対する満足度が高く、反対に“子供の遊び場や公園”や“道路の除雪”に対する満足度が低くなっています。
- 居住継続意向は、76.4%が「ずっと住み続けたい」、「当分住み続けたい」となっており、市全体の平均と同率となっています。

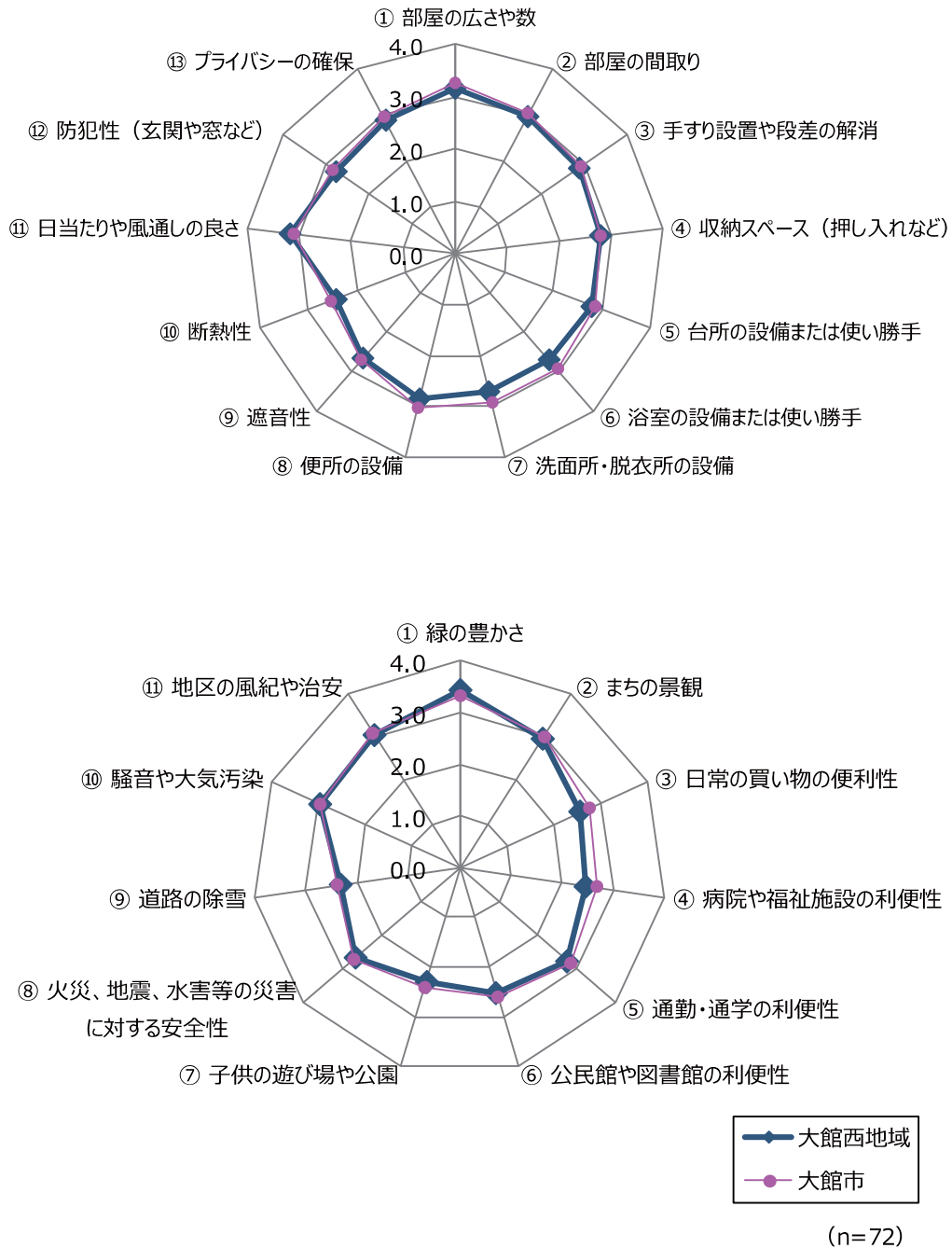


図 住宅及び周辺環境の満足度（大館西地域）

## (2) 地域の課題

○本地域は、豊かな田園地帯と集落景観が形成されており、広大な田園は本市における農業の生産基盤となっています。また、二井田地区工業団地の立地により、就業の場としても機能しています。さらに、市民の森においては、住民と協働した施設管理が行われており、これらの地域特性を活かした取組みが求められます。

○一方、利便性については、“日常の買い物”や“病院や福祉施設”、“子供の遊び場や公園”等について、不満の声が聞かれます。また、日治道の整備に伴う、地域内交通量の増加などの状況も見られることから、これらに対応した取組みが求められます。

### ◆大館西地域の将来像

大館西地域  
将来像

豊かな自然に包まれ、田園景観や  
工業団地と共生する住環境づくり

## (3) 主な施策

目標	展開方向	主な方針、施策等
目標 1	災害が発生しても持続可能な しなやかで強いまちづくり	危険な地域を把握し、防災を推進
	便利で快適に暮らせる住環境整備	雪国でも暮らしやすい住環境整備
目標 2	住みたくなる魅力あふれる大館の実現	戸建て住宅を持ちやすい環境整備
	若年層や移住者が住みやすい 活気あるまちづくり	・移住・定住しやすい住環境整備 ・子育て世帯の移住・定住推進
	官民連携のまちづくり体制構築	官・民それぞれの長所を生かした まちづくりを推進
	住生活産業振興による地域活力の向上	住生活産業の振興・発展
目標 3	公共交通が機能した コンパクトシティの実現	公共交通施策と連携した住環境整備
	街なかや郊外部の小さな拠点化 による集落生活圏の形成	地域コミュニティの維持向上
目標 4	ライフスタイルの変化に伴う 自由な居住環境の選択	郊外の環境に適した住環境選択推進
	住まいやまちづくりなどを知り、 大館市への愛着と誇りを育成	大館に住むということやまちづくりについて理解を深める（市民の森等）

西地域は、豊かな田園景観に包まれた地域だね！



## 2-3. 大館南地域

### (1) 地域の特性

#### ◆地域の概要

- 市の中央部から東部に位置し、東側が鹿角市に隣接する地域です。面積は 96.62 km<sup>2</sup>で、市全体の 11%を占めています。
- 一級河川米代川が東部から北西部に流れ、北部から東南部は山地になっており、三哲山や鞍掛山等が優れた山地景観を形成しています。
- 土地利用では、地域の大部分を森林が占め、米代川沿いの平地は農用地として利用されています。(市)大町山館線(旧国道 103 号)沿道に、集落や商業地が広がっています。また、JR 花輪線の駅周辺に宅地が集積しており、大滝温泉駅周辺は温泉街になっています。
- 十二所駅周辺は、北部老人福祉総合エリアが整備され、高齢者福祉サービスの拠点となるほか、秋田労災病院等の医療施設も立地しています。
- 北西部の農用地では野菜の生産が盛んであり、米代川沿いでは、稲作・畑作・果樹・酪農等の複合農業が行われるなど、優れた農村景観を形成しています。特に別所地区は、「守りたい秋田の里地里山 50」に認定されています。また、高品質な農産物の生産・加工や体験事業を通じて、国道 103 号沿いには農産物の直売所が立地し、地域住民や観光客が、地域を訪れています。
- 交通基盤として、JR 花輪線が国道 103 号と並走しており、大滝温泉駅、十二所駅、沢尻駅の 3 つの駅が立地しています。また、国道 103 号が東西を横断し主要幹線道路となり、秋田市から鹿角市につながる国道 285 号などが幹線道路となっています。さらに、北西部に大館南 IC が立地し、自動車交通の分岐点になっているほか、この大館南 IC につながる国道 103 号バイパスが整備されています。
- ・居住地と土砂災害危険区域が近接している箇所もあり、対策が求められています。



北部老人福祉総合エリア



農業体験

#### ◆人口・世帯

- 大館南地域の2015（平成27）年の人口は、5,914人で市全体の8.0%を占めています。  
 世帯数は、1,966世帯で市全体の7.0%を占めています。1世帯当たりの人員は、3.01人/世帯で、6地域の中で最も高くなっています。  
 ○高齢者の割合は36.2%と、6地域の中で最も高くなっています。

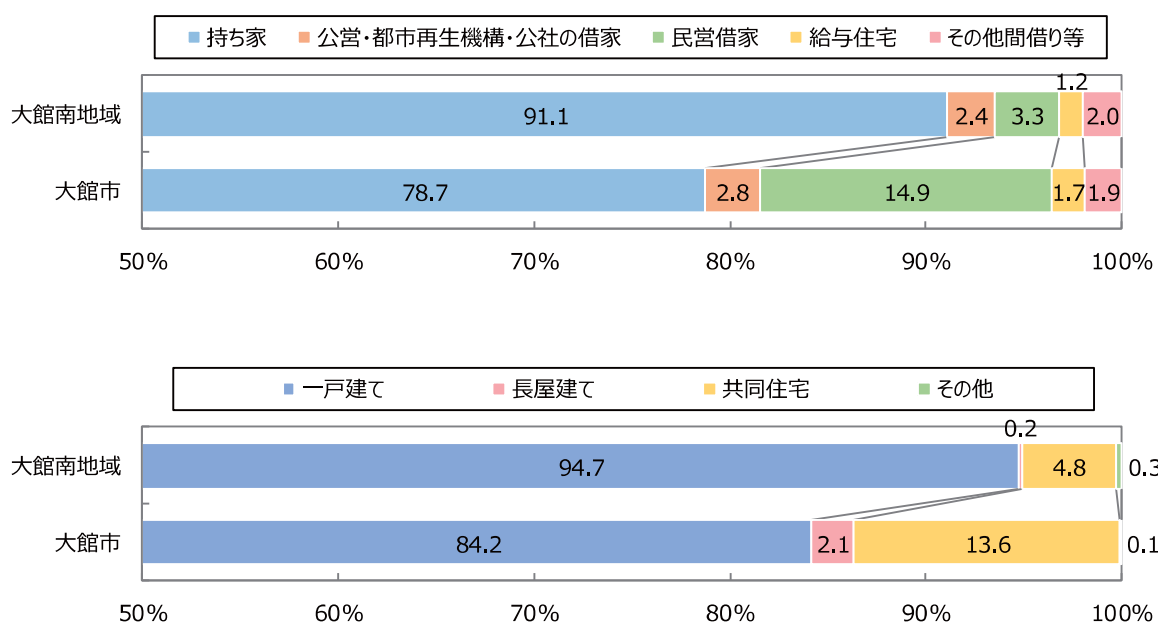
表 人口・世帯等の現況（大館南地域）

	人口	割合	世帯数	割合	1世帯当たり 人員
大館市	74,175	100.0%	28,242	100.0%	2.63
大館南地域	5,914	8.0%	1,966	7.0%	3.01

資料：2015（平成27）年国勢調査

#### ◆住宅・住環境

- 住宅の所有関係では、持ち家91.1%、民営借家3.3%となっており、市の平均と比べて持ち家の割合が多くなっています。  
 ○住宅の建て方では、一戸建てが94.7%、共同住宅が4.8%となっており、市の平均と比べて一戸建ての割合が多くなっています。



資料：2015（平成27）年国勢調査

図 所有関係別・建て方別の現況（大館南地域）

## ◆住民ニーズ

○アンケート結果によると住まいの満足度は、“部屋の広さや数”や“便所の設備”に対する満足度が高く、反対に“断熱性”に対する満足度が低くなっています。

○周辺環境の満足度としては、“緑の豊かさ”に対する満足度が高く、反対に“公民館や図書館の利便性”や“子供の遊び場や公園”に対する満足度が低くなっています。

○居住継続意向は、74.6%が「ずっと住みたい」、「当分住みたい」となっており、市全体の平均より低い値となっています。

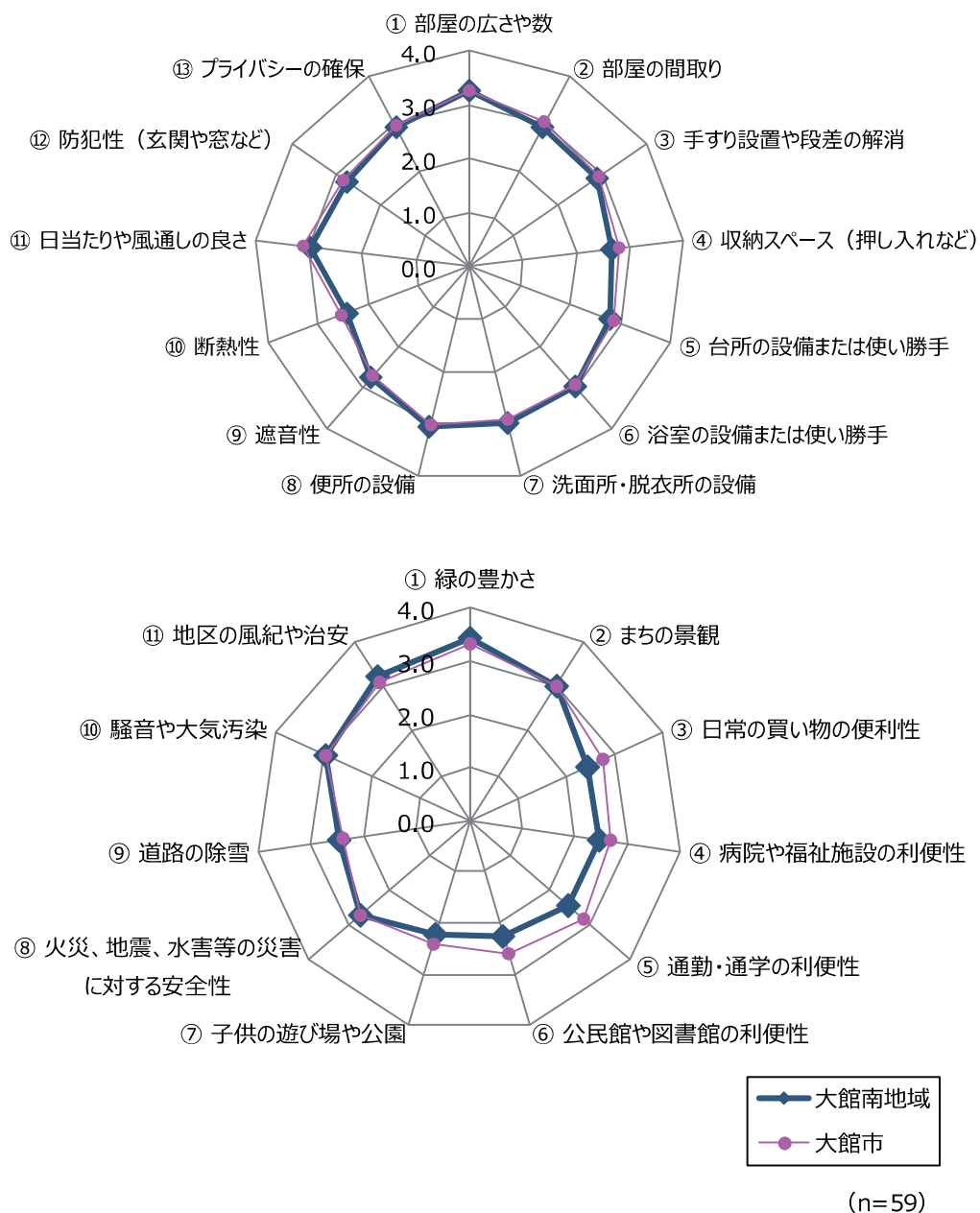


図 住宅及び周辺環境の満足度 (大館南地域)



## (2) 地域の課題

- 本地域は、東西に流れる一級河川米代川と、その両岸にみられる山地・農用地・集落による景観で形成されています。農用地では、稲作・畑作・果樹・酪農等の複合農業が行われ、地域を代表する高品質の農産物が生産・加工されています。
- 十二所駅周辺には、北部老人福祉総合エリアが整備され、高齢者福祉サービスの拠点となっています。
- 一方、利便性については、“日常の買い物”や“病院や福祉施設”、“通勤・通学”、“公民館や図書館”、“子供の遊び場や公園”等について、不満の声が聞かれます。

### ◆大館南地域の将来像

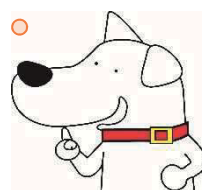
大館南地域  
将来像

農業と共に、  
元気で安心して暮らせる住環境づくり

## (3) 主な施策

目標	展開方向	主な方針、施策等
目標 1	災害が発生しても持続可能な しなやかで強いまちづくり	危険な地域を把握し、防災を推進
目標 2	住みたくなる魅力あふれる大館の実現	戸建て住宅を持ちやすい環境整備
	住生活産業振興による地域活力の向上	住生活産業の振興・発展
目標 3	公共交通が機能した コンパクトシティの実現	公共交通施策と連携した住環境整備
	街なかや郊外部の小さな拠点化 による集落生活圏の形成	地域コミュニティの維持向上
目標 4	ライフスタイルの変化に伴う 自由な居住環境の選択	郊外の環境に適した住環境選択推進
目標 5	市営住宅の良質ストック整備	居住環境を改善し、安全・安心な 市営住宅整備推進

南地域は、大館の原風景が見られる場所だね。高齢者も安心して暮らせる住環境づくりが大切だね！



## 2-4. 大館北地域

### (1) 地域の特徴

#### ◆地域の概要

- 市北部に位置し、北側が青森県に隣接する地域です。面積 104.60 km<sup>2</sup>で、市全体の 11%を占めています。
- 北部から南部には一級河川米代川の支流である下内川が流れ、粕田川・大森川・花岡川等が流れています。
- 土地利用では、東西・北部は山地部で、南部や北部の谷間の平地部が宅地や農用地として利用されています。また、南部は大館東地域と連続した市街地を形成し、用途地域に指定されています。南西部は鉱山開発の歴史があり、鉱山関連の土地が工業団地や宅地に転用され、ある程度のまとまった宅地を形成しています。
- 工業団地として、大館北 IC に近接している利便性を活かして物流拠点を目指す釈迦内産業団地や、かつての鉱山技術を活用したリサイクル産業の拡大を目指す花岡・花岡第二工業団地が形成されています。
- 中央部西側には市営住宅が集積するほか、国際情報学院中学校・高等学校、花岡総合スポーツ公園、高齢者福祉施設が集積しています。
- 交通基盤として、JR 奥羽本線が国道 7 号と並走しており、白沢駅、陣場駅の 2 つの駅が立地しています。また、日本海沿岸東北自動車道が整備され、大館北 IC の供用により、高速交通の確保、周辺の利便性向上等の効果が期待されるほか、釈迦内地区における道路拡幅等の整備により、国道 7 号の交通機能が強化されつつあります。
- 大館北 IC の利便性を活かした産業の振興が推進されており、秋田杉天然林等の豊かな自然環境は県を代表する資源となっています。
- 釈迦内サンフラワープロジェクトでは、地域の学校や企業、農家等が協力してひまわりの地域ブランド化が進み、ひまわりファスティバルや加工品の販売等が行われています。



釈迦内サンフラワープロジェクト



釈迦内パーキングエリア

◆人口・世帯

○大館北地域の2015（平成27）年の人口は、11,168人で市全体の15.1%を占めています。世帯数は、4,063世帯で市全体の14.4%を占めています。1世帯当たりの人員は、2.75人/世帯で、市の平均と比べて高くなっています。

○高齢者の割合は36.3%と、市の平均と比べて0.4%高くなっています。

表 人口・世帯等の現況（大館北地域）

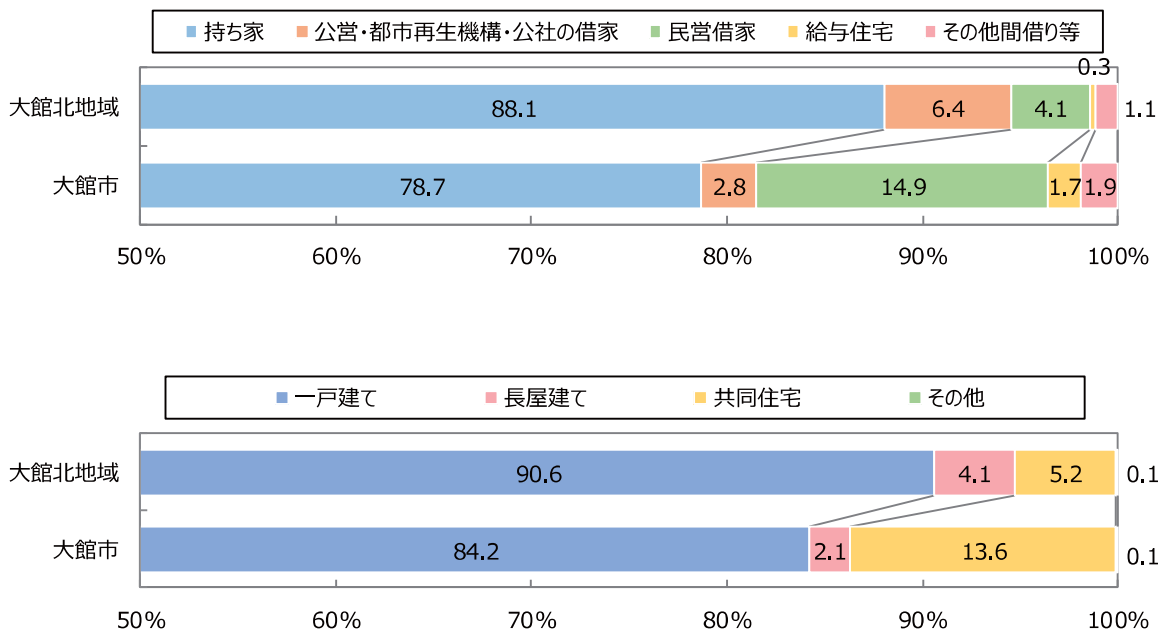
	人口	割合	世帯数	割合	1世帯当たり 人員
大館市	74,175	100.0%	28,242	100.0%	2.63
大館北地域	11,168	15.1%	4,063	14.4%	2.75

資料：2015（平成27）年国勢調査

◆住宅・住環境

○住宅の所有関係では、持ち家88.1%、公営・公団・公社の借家6.4%となっており、市の平均と比べて、持ち家と公営・都市再生機構・公社の借家の割合が多く、民営借家の割合が低くなっています。

○住宅の建て方では、一戸建てが90.6%、共同住宅が5.2%となっており、市の平均と比べて一戸建ての割合が多くなっています。



資料：2015（平成27）年国勢調査

図 所有関係別・建て方別の現況（大館北地域）

◆住民ニーズ

- アンケート結果によると住まいの満足度は、“部屋の広さや数”、“部屋の間取り”、“浴室の設備または使い勝手”、“洗面所・脱衣所の設備”、“日当たりや風通しの良さ”に対する満足度が高く、反対に“遮音性”や“断熱性”に対する満足度が低くなっています。
- 周辺環境の満足度としては、“緑の豊かさ”、“地区の風紀や治安”に対する満足度が高く、反対に“子供の遊び場や公園”、“道路の除雪”に対する満足度が低くなっています。
- 居住継続意向は、85.0%が「ずっと住み続けたい」、「当分住み続けたい」となっており、6地域のうち最も高い値となっています。

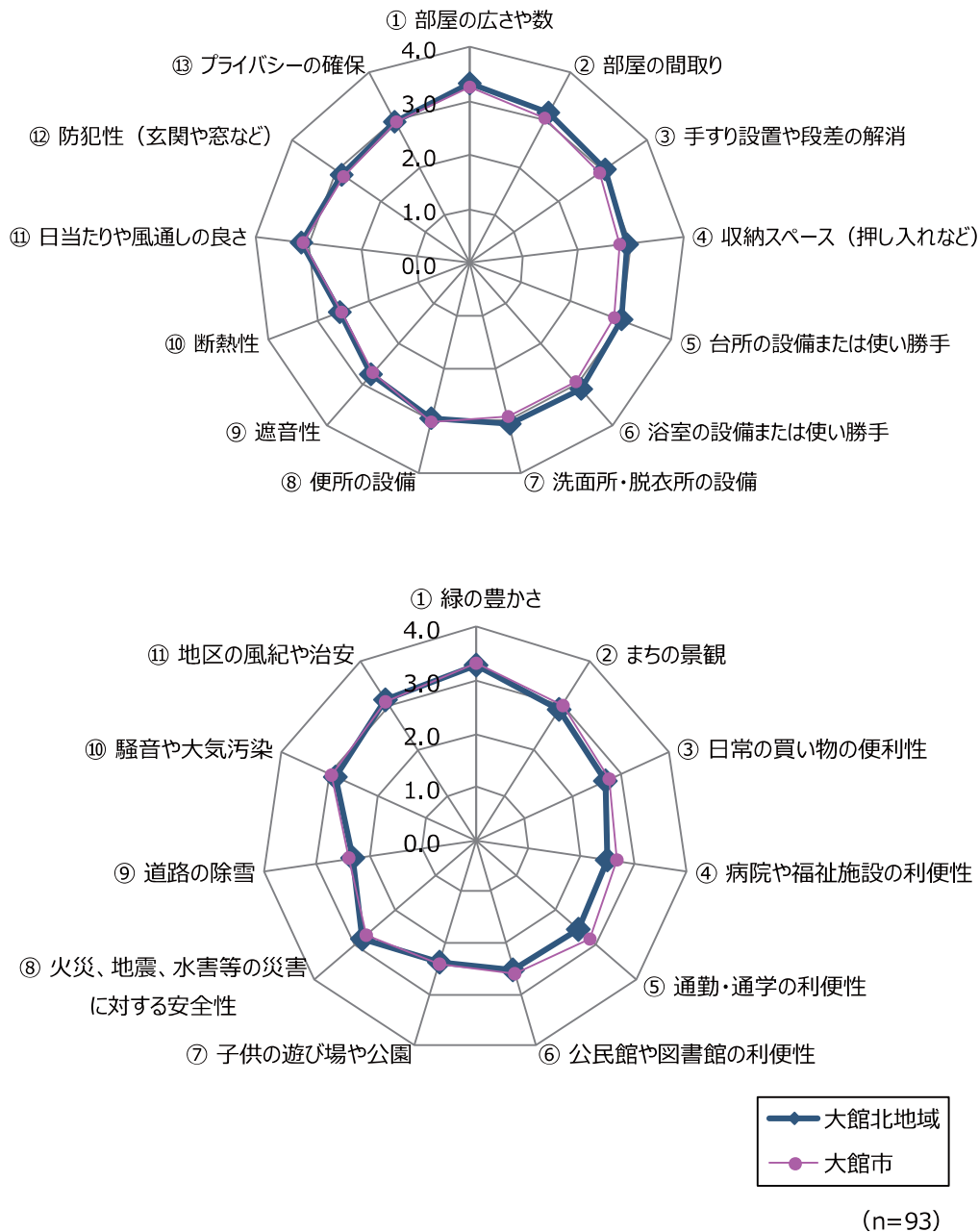


図 住宅及び周辺環境の満足度 (大館北地域)

## (2) 地域の課題

- ・本地域は、矢立峠や長走風穴高山植物群落等、歴史ある自然が地域固有の景観を形成し、豊富な水と温泉、秋田杉天然林等といった貴重な資源が存在します。また、鉱山技術を活用したりサイクル産業や、大館北 IC に近接している利便性を活かして物流拠点を目指すなど、新たな産業の振興が推進されています。さらに、地域が一体となって取り組んできた、釈迦内サンフラワープロジェクトにより、地域ブランド化も進められており、地域資源の更なる磨き上げが求められています。
- ・一方、利便性については、“病院や福祉施設”、“通勤・通学”、“道路の除雪”等について、不満の声が聞かれます。

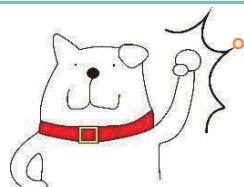
### ◆大館北地域の将来像

大館北地域  
将来像

豊かな自然景観、新たな産業と  
共生する住環境づくり

## (3) 主な施策

目標	展開方向	主な方針、施策等
目標 1	災害が発生しても持続可能な しなやかで強いまちづくり	危険な地域を把握し、防災を推進
	環境に配慮した持続可能なまちづくり	再生可能エネルギーの普及促進
	便利で快適に暮らせる住環境整備	雪国でも暮らしやすい住環境整備
目標 2	住みたくなる魅力あふれる 大館の実現	戸建て住宅を持ちやすい環境整備
	住生活産業振興による地域活力の向上	住生活産業の振興・発展
目標 3	公共交通が機能した コンパクトシティの実現	駅前を起点とした賑わい再生
	街なかや郊外部の小さな拠点化 による集落生活圏の形成	地域コミュニティの維持向上
目標 4	住まいやまちづくりなどを知り、 大館市への愛着と誇りを育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大館に住むということやまちづくりについて理解を深める</li> <li>・ふるさとキャリア教育などと連携した住教育（サンフラワープロジェクト等）</li> </ul>
目標 5	市営住宅の良質ストック整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に配慮した市営住宅整備推進</li> <li>・居住環境を改善し、安全・安心な市営住宅整備推進</li> </ul>



北地域は、地域コミュニティ  
がしっかりしているね。



## 2-5. 比内地域

### (1) 地域の特徴

#### ◆地域の概要

- 市南東部に位置し、南西側が北秋田市、東側が鹿角市に隣接する地域です。面積は205.32 km<sup>2</sup>で、市全体の22%を占めています。
- 地域の北側には一級河川米代川が流れ、その支流である犀川が合流します。南部は森吉山に続く広い山地に覆われ、東から西に向かって緩やかな傾斜となっています。
- 土地利用では、(主)比内田代線沿いに商店街が形成され、地域の中心商業地となっています。またその商業地を取り巻くようにまとまった住宅地が形成され、市街地東部では住宅の新築が進行しています。
- 地域では一部が用途地域に指定されており、用途地域の南側には新館工業団地と小森山ミニ工業団地が立地しています。また市街地東部の準工業地域は、利用可能な用地がある状況となっています。
- 農用地は南東部の犀川沿いに分布しており、比内地鶏、GI(地理的表示)を取得した大館とんぶり、しいたけ、葉たばこ等、自然の恵みによって昔から発展してきた農業は、全国に魅力を発信できる比内ブランドとして確立しています。
- 達子森や竜ヶ森、長者森は地域固有の景観を形成しており、達子森ではトイレや水飲み場等の管理、散策道の草刈りが実施され、身近な緑として親しまれています。
- 北部の市街地に、医療施設や高齢者福祉施設、体育施設、道の駅ひない等の交流拠点が集積しています。また、比内地鶏の鶏糞をたい肥化する大館市比内地鶏鶏糞処理施設が立地しています。
- 交通基盤では、JR花輪線が北部を横断し、扇田駅が立地しています。秋田市と鹿角市をつなぐ国道285号が地域の主要幹線道路となっており、さらに二井田地区工業団地をつなぐアクセス道路が整備されたことで、工業団地の有効活用が図られています。



ひない商人まつり



扇田駅

◆人口・世帯

- 比内地域の2015（平成27）年の人口は、9,658人で市全体の13.0%を占めています。  
 世帯数は、3,263世帯で市全体の11.6%を占めています。1世帯当たりの人員は、2.96人/世帯で、市の平均と比べて高くなっています。  
 ○高齢者の割合は36.7%と、市の平均と比べて0.8%高くなっています。

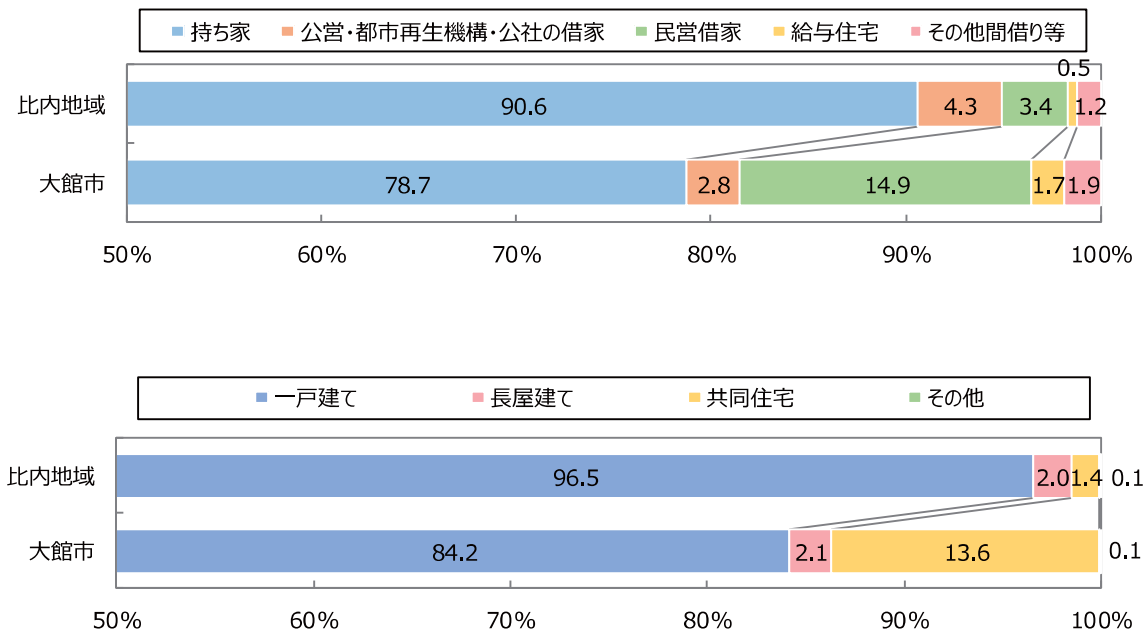
表 人口・世帯等の現況（比内地域）

	人口	割合	世帯数	割合	1世帯当たり 人員
大館市	74,175	100.0%	28,242	100.0%	2.63
比内地域	9,658	13.0%	3,263	11.6%	2.96

資料：2015（平成27）年国勢調査

◆住宅・住環境

- 住宅の所有関係では、持ち家90.6%、公営・都市再生機構・公社の借家4.3%となっており、市の平均と比べて持ち家の割合が高くなっています。  
 ○住宅の建て方では、一戸建てが96.5%、長屋建て2.0%となっており、市の平均と比べて一戸建ての割合が多くなっています。



資料：2015（平成27）年国勢調査

図 所有関係別・建て方別の現況（比内地域）

## ◆住民ニーズ

○アンケート結果によると住まいの満足度は、“部屋の広さや数”、“便所の設備”、“日当たりや風通しの良さ”に対する満足度が高く、反対に“断熱性”に対する満足度が低くなっています。

○周辺環境の満足度としては、“緑の豊かさ”、“地区の風紀や治安”に対する満足度が高く、反対に“病院や福祉施設等の利便性”、“子供の遊びや公園”に対する満足度が低くなっています。

○居住継続意向は、82.9%が「ずっと住み続けたい」、「当分住み続けたい」となっており、他の地域と比べて高い値となっています。

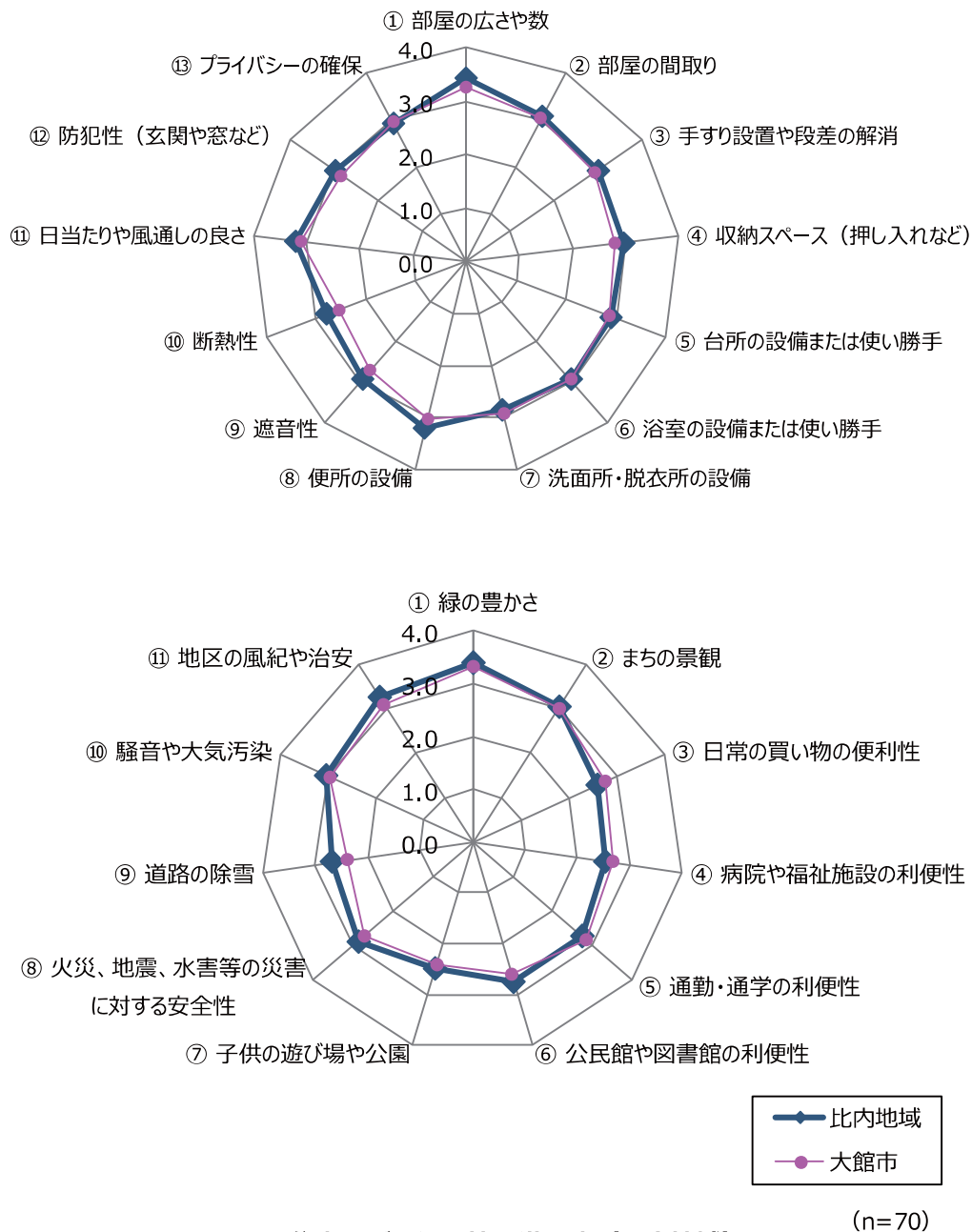


図 住宅及び周辺環境の満足度（比内地域）

## (2) 地域の課題

○本地域は、中心商業地の周りに住宅地が形成されており、生活を支える商店街には様々な店舗が立地し都市機能が充実していることから、地域への愛着や、利便性への満足度が高くなっています。また、達子森や竜ヶ森、長者森は地域固有の景観を形成しています。さらに、比内地鶏等の農産物や特産物は、全国に魅力を発信できる比内ブランドとして確立されています。

○バリアフリーまちづくり計画では、扇田地区が移動等円滑化促進区域に指定されているとともに、公共交通による移動の利便性向上が求められています。

○一方、利便性については、“道路の除雪”について、不満の声が聞かれます。

### ◆比内地域の将来像

比内地域  
将来像

豊かな大地で育つ地域資源と  
共生する住環境づくり

## (3) 主な施策

目標	展開方向	主な方針、施策等
目標 1	便利で快適に暮らせる住環境整備	雪国でも暮らしやすい住環境整備
目標 2	住みたくなる魅力あふれる大館の実現	戸建て住宅を持ちやすい環境整備
目標 3	公共交通が機能した コンパクトシティの実現	駅前を起点とした賑わい再生
	街なかや郊外部の小さな拠点化 による集落生活圏の形成	地域コミュニティの維持向上
目標 4	住まいやまちづくりなどを知り、 大館市への愛着と誇りを育成	大館に住むということやまちづくりについて理解を深める（比内ブランド化等）

比内地域には、比内ブランドの農産物や魅力がたくさんあるよ。  
地域資源の磨き上げを続けて、全国に発信しよう！



## 2-6. 田代地域

### (1) 地域の特徴

#### ◆地域の概要

- 市北西部に位置し、西側が北秋田市・藤里町、北側が青森県に隣接する地域です。面積は306.70 km<sup>2</sup>で、市全体の34%を占めています。
- 一級河川米代川が地域の南側を横断し、支流の岩瀬川と早口川の二つの流域から形成されています。山地が北部・中央部の大部分を占めており、川沿いの平地には、農村集落が見られます。岩瀬川上流にはロケットエンジン燃焼試験場があり、宇宙航空産業の発展に寄与しています。
- 土地利用において、早口駅周辺は舟運の船着場と住宅地を形成しています。また、川沿いの農用地は水稻を中心に、野菜等が生産されており、繁殖牛やさくら豚を中心とした畜産も行われています。
- 岩瀬地区には、羽貫谷地工業団地、岩瀬工業団地が立地し、地域の雇用の場となっています。山地部の森林は、地域の約9割を占め、古くから森林資源に恵まれている地域です。山瀬ダム周辺の山地部は、市営牧場があり、放牧場として利用されています。
- 田代岳の火山景観、田代岳湿原の池塘（ちとう）景観、北部の滝や渓谷、早口や深岳等の河岸段丘等の河川景観等、優れた自然景観に恵まれています。
- 早口駅周辺には公共公益施設が集積しています。早口駅北部には、たしろ温泉ユップラや、高齢者福祉施設、体育施設等の健康・福祉サービスが集積しています。
- 交通基盤として、JR奥羽本線が国道7号と並走しており、早口駅が立地しています。地域の南部を国道7号が横断し、主要幹線道路となっています。
- 大館市バリアフリーマスタープランでは早口地区が、移動等円滑化促進区域に位置づけられています。また、地域助け合い型の移動サービスの導入に向けて取組まれています。
- 地域の有志が中心となり設立された「元気なたしろ盛上げ隊」や、地域の高齢者が生きがいを持って自立できる生活基盤の確立を目指し設立された「山田地域づくり協議会」などは、地域の資源を活用した活動や事業を行っています。



地域資源を磨き上げる十ノ瀬藤の郷



池塘（ちとう）景観が広がる田代岳



◆人口・世帯

○田代地域の2015（平成27）年の人口は、6,265人で市全体の8.4%を占めています。

世帯数は、2,195世帯で市全体の7.8%を占めています。1世帯当たりの人員は、2.85人/世帯で、市の平均よりも高くなっています。

○高齢者の割合は39.2%と、市の平均と比べて2.3%高くなっています。

表 人口・世帯等の現況（田代地域）

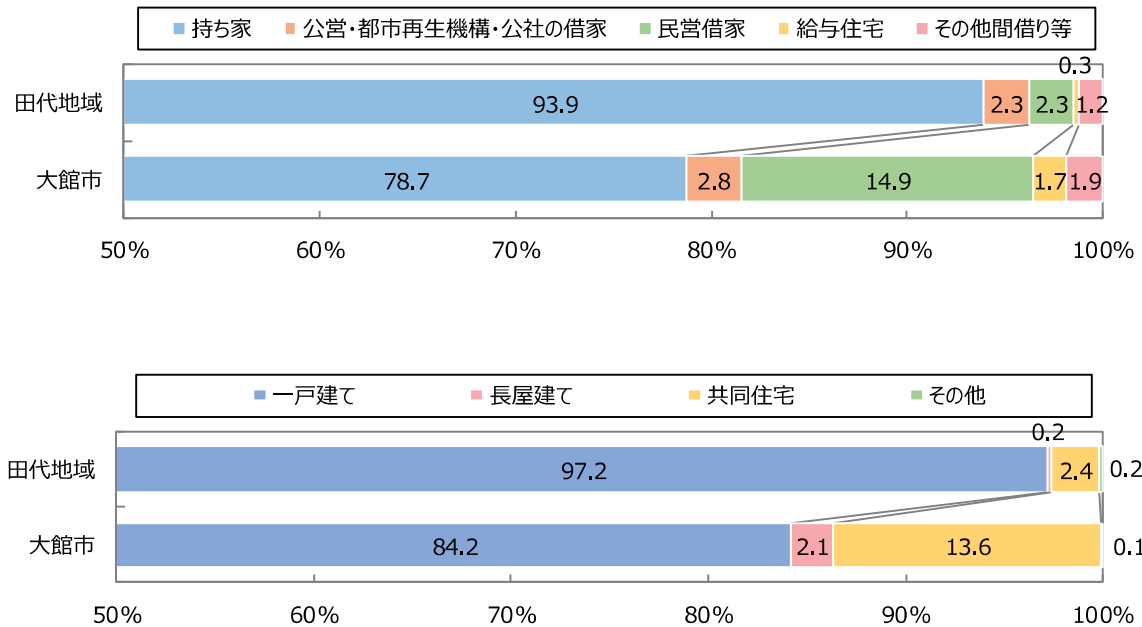
	人口	割合	世帯数	割合	1世帯当たり 人員
大館市	74,175	100.0%	28,242	100.0%	2.63
田代地域	6,265	8.4%	2,195	7.8%	2.85

資料：2015（平成27）年国勢調査

◆住宅・住環境

○住宅の所有関係では、持ち家93.9%、公営・都市再生機構・公社の借家2.3%、民営借家2.3%となっており、6地域の中で持ち家の割合が最も多く、民営借家の割合が最も少なくなっています。

○住宅の建て方では、一戸建てが97.2%、共同住宅が2.4%となっており、市の平均と比べて一戸建ての割合が多くなっています。



資料：2015（平成27）年国勢調査

図 所有関係別・建て方別の現況（田代地域）

◆住民ニーズ

○アンケート結果によると住まいの満足度は、“部屋の広さや数”に対する満足度が高く、反対に“断熱性”に対する満足度が低くなっています。

○周辺環境の満足度としては、“緑の豊かさ”、“地区の風紀や治安”に対する満足度が高く、反対に“日常の買い物”や“病院や福祉施設”の利便性、“子供の遊び場や公園”に対する満足度が低くなっています。

○居住継続意向は、67.4%が「ずっと住み続けたい」、「当分住み続けたい」となっており、6地域の中で最も低い値となっています。

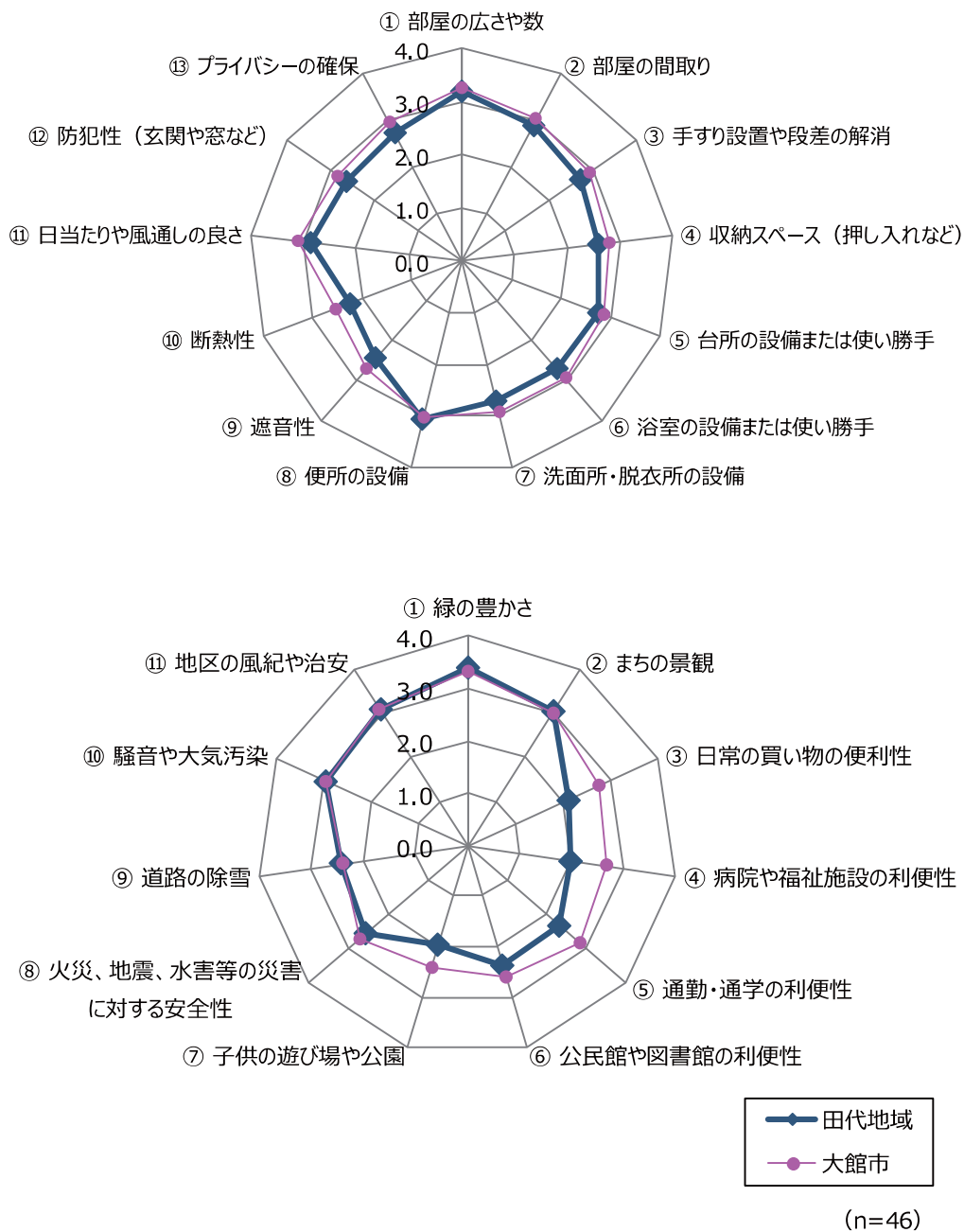


図 住宅及び周辺環境の満足度（田代地域）

## (2) 地域の課題

○地域のシンボルである田代岳を代表とする豊かな自然に囲まれた地域で、これら自然景観と調和した低密度な住宅地が広がります。また、地域住民が主体となった伝統文化の継承や、地域資源の活用・磨き上げが進められています。

○バリアフリーまちづくり計画では、早口地区が移動等円滑化促進区域に指定されているとともに、多様な移動サービスの検討による、利便性向上が求められています。

○一方、利便性について、“日常の買い物”や“病院や福祉施設”、“通勤・通学”、“子供の遊び場や公園”等で、不満の声が聞かれます。

### ◆田代地域の将来像

田代地域  
将来像

自然の恵み、磨き上げた魅力と  
共生する住環境づくり

## (3) 主な施策

目標	展開方向	主な方針、施策等
目標 1	便利で快適に暮らせる住環境整備	良質住環境・良質住宅ストックの形成
目標 2	住みたくなる魅力あふれる大館の実現	戸建て住宅を持ちやすい環境整備
目標 3	公共交通が機能した コンパクトシティの実現	公共交通施策と連携した住環境整備
	街なかや郊外部の小さな拠点化 による集落生活圏の形成	地域コミュニティの維持向上
目標 4	住まいやまちづくりなどを知り、 大館市への愛着と誇りを育成	ふるさとキャリア教育などと連携した 住教育

田代地域では、様々な試み  
が行われていて、自然の恵  
みを活かした地域づくりが  
進められているよ！

